

コロナ対策支援要望に成果

自治体へ直訴 栃木・矢板市を好事例と発信

全運協

広報車両の運行委託で救い

全国運転代行協会（丹澤 忠義会長）による自治体へ
の新型コロナウイルス経済
対策支援要望が、目に見え
る成果につながっている。

事業者に直接、支給金を出
す例が多い中で、栃木県矢
板市は、地元の運転代行事
業者に対し、広報車両の運
行を委託する形で支援策を
講じた。

矢板市は昨年、「独自に
緊急に業務を委託すること
で、感染防止と労働機会を
活動が2月24日～3月31
177万円余。委託費は計
初回以外はすべて、市内

唯一の全運協会員会社の
皓翔（大久保文雄社長）
が担った。自らハンドルを
握った大久保社長は「仕事
をいただくほうがメリット
が大きい。ふんぞり返って
お金をいただくわけではな
いので、市民にも納得して
もらえる」と強調する。

運行初日に出発式が催さ
れ、最終日には感謝の花束
が贈られた。「運転代行業
はグレーな印象が持たれて
いる。市の活動に貢献した
ことでイメージアップにつ
なげた」と同社長。その
後、昨年10月に、衆院選へ
の投票を呼びかける広報車
も請け負った。

板橋副会長は「仕事がな
いときに仕事をいただき、
大変ありがたい」と感謝し
ている。齋藤市長にお礼文
を書き、市長からも謝意の
返信文が寄せられた。

全国的に見ると、要望を
出しても、財政的な事情で
支援を見送る自治体は少な
くないという。全運協では
矢板市の委託運行を好事例
としてホームページなどで
周知しており、各地の陳情
活動で支援が引き出せるよ
う期待を寄せる。



④「コロナ第6波のおそれもあり、先行きが見通せない」と心配す
る皓翔の大久保社長（昨年12月7日、栃木県矢板市）

⑤矢板市役所での広報車両出発式。齋藤市長（左端）が記念の鍵を
大久保社長（右隣）らに手渡した。右から2人目は全運協の板橋副
会長（昨年2月24日）



矢板市からの支援は、齋
藤淳一郎市長への表敬訪問
を通じて実現。皓翔の大久
保社長が市の秘書広報課に
出向き、全運協の名刺を添